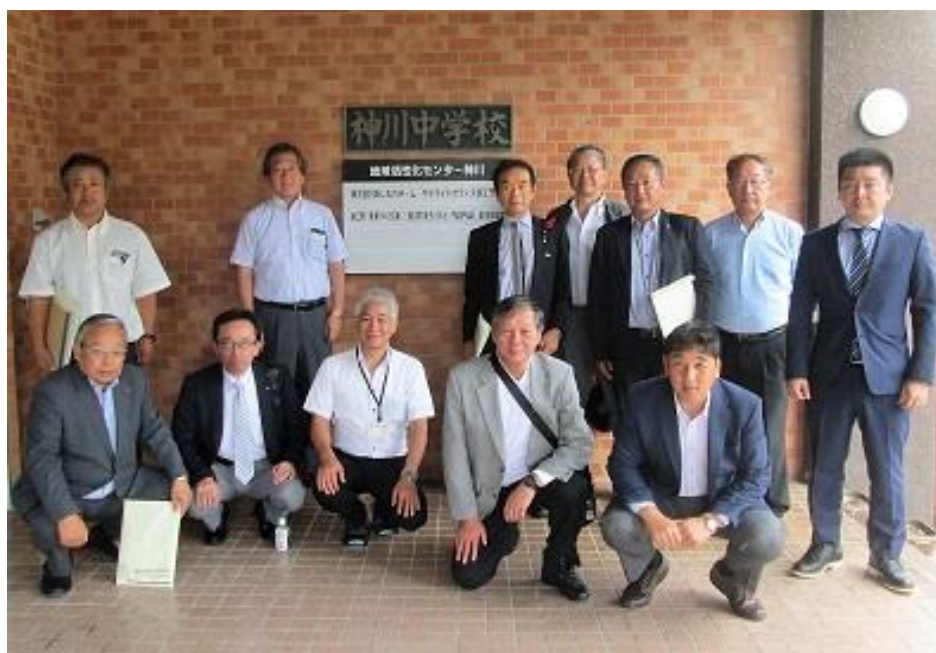


創政クラブ・高山市議会公明党・無党派合同視察

鹿児島県錦江町

Mirai づくりプロジェクト



平成 30 年 10 月 4 日実施

視察先：鹿児島県錦江町

視察内容 「Mirai づくりプロジェクト」について

創政クラブ・中田清介・橋本正彦・水門義昭

・車戸明良・倉田博之・谷村昭次・伊東寿充

高山市議会公明党・中箴博之・山腰恵一

無党派・岩垣和彦・松山篤夫

中田清介

視察の目的



本年7月、議会総務環境委員会は北海道ニセコ町に自治基本条例の視察をしました。内容は自治基本条例の制定についてでしたが、自治基本条例とまちづくりの関係で説明を受けながら、企画環境課長：山本契太さんから、住民主体のまちづくりに取り組んでおられる自治体として、鹿児島県錦江町の事例をご紹介いただきました。地方創成がらみの最近のプロジェクトということで、町村部では唯一政府の認定団体として選ばれたことを見ていましたので、視察地として選びました。議会は市内支所地域の地域振興について、都市計画の手法も駆使して地区調査を徹底し、高山市第8次総合計画の後期計画への見直しを契機に、その振興計画を策定して地域の未来像をしっかりと示すべきだと主張してきました。その前提となるものは住民と支所との結びつきを再確認し、住民の皆さんのやる気を引き出す仕組みを整えることだと認識

しています。鳴り物入りで導入した「まちづくり協議会」についても、地区の構成範囲や役員構成、将来像について早くも齟齬が出ている状況です。そうした事を主眼として錦江町の取り組みについて研修させていただくこととしました。

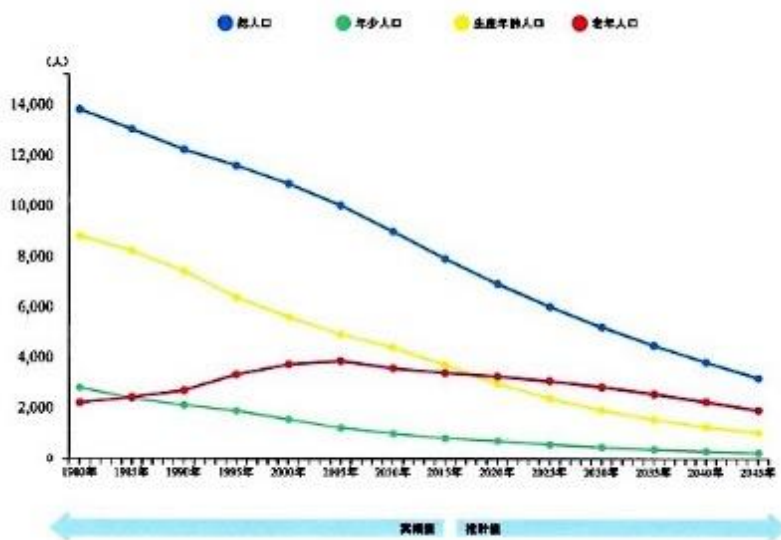
錦江町の概要：平成17年1月24日旧大根占町及び旧田代町による合併で錦江町が誕生。

人口：7923人 年少人口・817人、生産年齢人口・3,704人、高齢者人口・3,402人

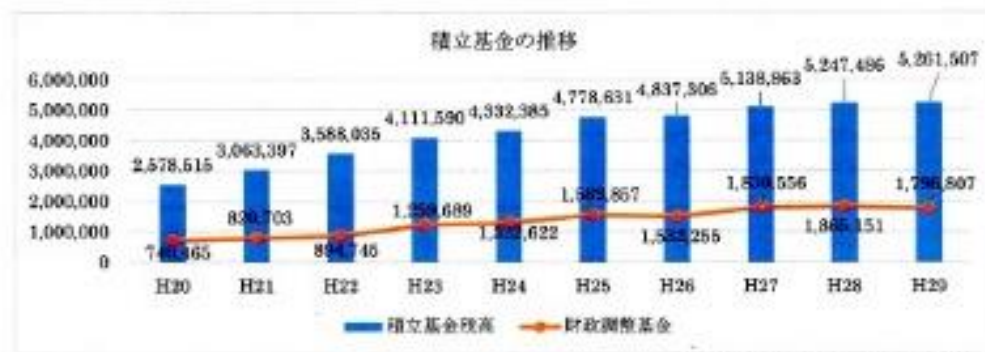
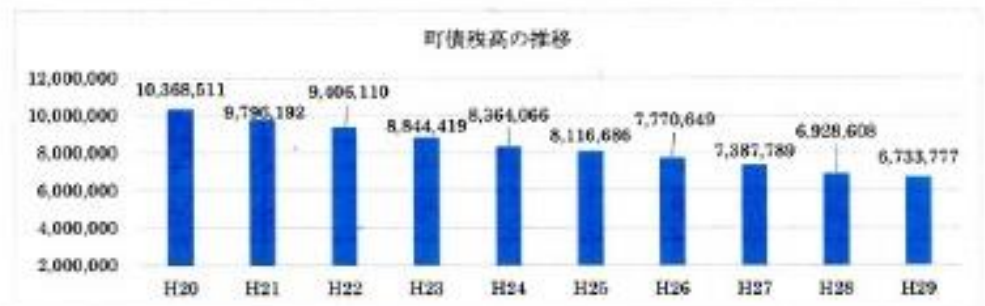
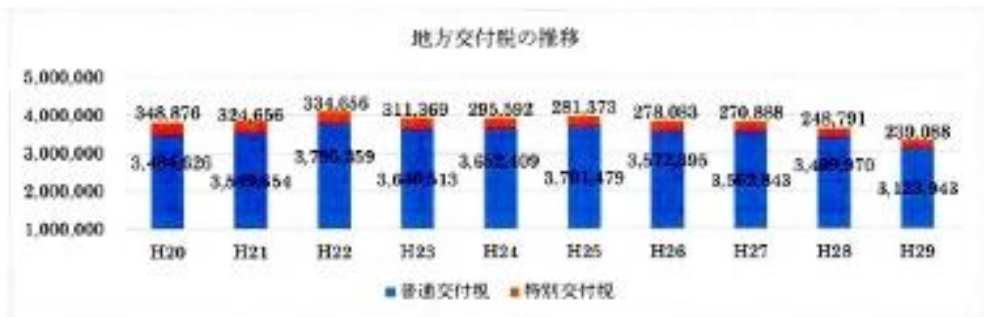
世帯数：3,442世帯 面積：163.19k㎡

産業構造：第1次産業・35.1%、1,393人。第2次産業・15.5%、614人。

第3次産業・49.5%、1,965人



錦江町人口の推移と推計です。ご覧のように今後年少人口と共に、生産年齢人口の減少が進みます。その反面高齢者の人口は高いレベルで推移します。2020年前に生産年齢人口と高齢者人口は逆転してしまいます。こうしたところに「厳しい現実を逆手にとって、子や孫のために希望溢れる未来を創りつなぐ必要性」が生まれています。



(各年度地方財政状況調査より)

錦江町の財政状況は以上のとおりです。合併後の推移を見れば、平成 29 年度で財政力指数 0.18、経常収支比率 89.8、実質公債費比率 7.8 というところです。そうした中で起債残高の縮減、基金積立額の増額に努力しています。

錦江町Mirai プロジェクトの取り組み

2017年、錦江町地方創生総合戦略として錦江町Mirai プロジェクトはスタートしています。先に見たように、今そこにある危機に立ち向かうために地域の在り方を再構築していく取り組みです。

・どんなまちを目指しているのか 目指すべき4つの未来像

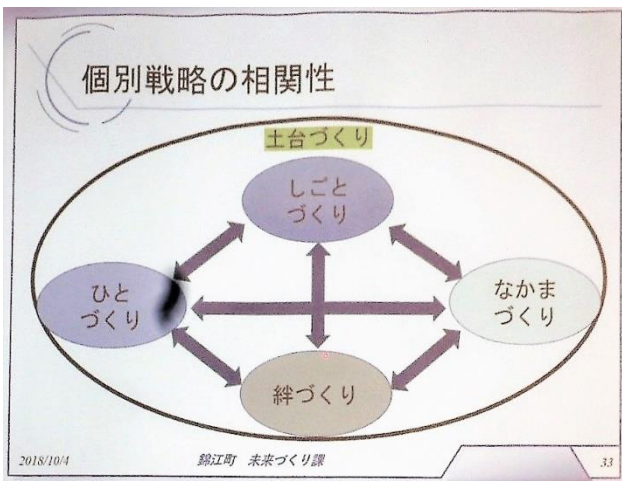
- ① 住民や移住者が明日への希望をもってビジネスや地域づくりにチャレンジできる町、そして彼らを本気で応援できる町
- ② 住民と移住者が一緒になって、世界で勝負できる価値創造型ビジネス作りや新たな集落支援活動にチャレンジできる町、そして彼らを本気で応援できる町
- ③ なりたいもの、やりたいことがある子供たちが、夢にチャレンジできる町、そして彼らを本気で応援できる町
- ④ 町民が胸を張って「錦江町に住んでいる」と誇れる町、誇りとワクワク感に満ちた希望の「MIRAI」が想像できる町

・錦江町Mirai プロジェクト基本戦略

錦江町「MIRAI」づくりプロジェクトとは

平成28年度にまちの総合戦略を抜本的に見直し、地方創生事業の柱を「みらいづくり」に大きくシフトしました。この地方総合戦略に係る事業の総称が「錦江町 MIRAI づくりプロジェクト」です。

プロジェクトを支える土台作り



町を活性化していくためには町民の皆さんと行政が町の現状と未来を一緒になって考え、協働していくことが大切。この「町民みんなで未来づくり」＝「土台」をしっかりと築く為の事業を実施し、町の様々な問題を「未来志向で」乗り越える大きな原動力にしていきます。

**町民のまちづくりにかける熱量増加
「自分事」として捉え、
主体的に「未来づくり」に参加**

を目指します。

皆で考える未来づくり：町民・議員・役場幹部・職員」一緒にベンチマーク地へ視察研修。

未来づくりり委員会スタート：話し合いと実践。町民参加型の自助、共助、公助的な未来。づくりへ挑戦

- ① しごとづくり：国内全体で進行している人口減少問題は、商売をしている人にとっては、これまでの様な消費額や生産量の「総量増加」が難しくなることを意味し、それは残念ながら簡単に止めることは出来ません。これを受け錦江町では、量ではなく質を上げることにこだわり、町内事業者の皆様の利益の増加や子供たちが憧れる様な「新しいビジネス興し」、そしてその環境整備を支援する事業を進めていきます。

ア 町内で頑張っている農林水産・商工事業者の「利益増加」や後継者・承継者「誘致」

	の仕組み整備
イ	子供たちが憧れ、町内にUターン就職したいと思えるような未来ビジネスの創出
ウ	10年以内に必ず現実となる第4次産業革命を担える人材輩出を強く意識した環境整備
エ	高齢者の方々による社会貢献型の小規模ビジネスの推進

実践している取り組み

◇農林水産・商工事業者への積極的な投資

- ・生き残りをかけた新たな取り組みに対する積極的な小額投資（10万～50万円）
- ・町民主導型ソーシャルビジネスに対する積極的な小額投資（10万～50万円）
- ・起業や起農に挑戦する方への積極的な小額投資（10万～50万円）
- ・高齢者によるスモールビジネスに対する積極的な小額投資（10万～50万円）
- ・役場が導入した「錦江町頑張るビジネス補助金」申請について事業計画を一緒に考える
- ・クラウドファンディング等、新たな事業資金獲得手段を助言し取り組みを支援

◇錦江町の未来を左右する「農林水産業」で頑張る方々を支援

- ・町内農林水産業経営者に対し、最先端通信技術（AI/ICT）の導入支援。
さらに「儲かる」経営を共に目指します。
- ・町内農林水産業経営者に対し、フードバリューチェーン化を意識した高付加価値型の販路営業拡大を共に行います。
- ・大学などと連携し、町内製品の機能性調査による付加価値向上に積極的に取り組む
- ・ふるさと納税等を活用、町内産品売上向上に積極的に取り組む
- ・商談会参加や先進地での勉強など、経営強化につながる為の「出張」旅費・参加費支援を積極的に行う。
- ・農業後継者不足解消を目的とした移住者誘致や町出身者の回帰誘致を積極的に行う
- ・起農を希望する移住者誘致や町出身者の回帰誘致をを積極的に行う。

◇価値低迷中の特産品に特化した所得向上を応援します

- ・努力はしているものの、国内外情勢により価格低迷を余儀なくされている特産品の高付加価値化による所得向上を生産者とともに積極的に行う
- ・新たな生産技術導入に向けた「研修」等への参加旅費を支援します。

◇その他

- ・移住者の仕事探しマッチング支援をあなたの移住応援します隊と協力して行う
- ・町内の「困りごと」を価値化し、ビジネスや学びへと繋げる取り組みを行います

◇ふるさと納税をさらに町の力に変えるプロジェクトのスタート

- ② なかまづくり：錦江町の人口は平成72年まで減少し続けると予測されています。当町では町外から移住者を誘致するために、まずは「真つ当」で「質の高い」様々な取り組みを着実に実践し、町に移住してもらいたい方々に、国内外問わず直接PRすることで町の「思い」や「実践活動」に共感してくれた移住者を柔らかに受け入れる体制を整えていきます。

ア	移住者を増やす	錦江町に住み、町に良い影響を与えてくれる方を増やす
イ	回帰者を増やす	町出身者で町の将来性に可能性を感じて回帰してくれる方を増やす
ウ	支援者を増やす	錦江町を強力に支援してくれる方を増やす

エ	投資者を増やす	錦江町に対して積極的に投資してくれる方を増やす
---	---------	-------------------------

実践している取り組み

- ◇起業や起業の意志と能力を有した新規移住者及び町出身の回帰移住者誘致を積極的に行う
- ◇農林水産業や商工業の後継者となりうる新規移住者及び町出身の回帰移住者誘致を積極的に行う。
- ◇町内に誘致した**知的産業（IT企業等）に「就職」**してくれる新規移住者及び町出身の回帰移住者誘致を積極的おこなう。
- ◇役場やNPO 団体と連携して、**錦江町ファンクラブ**を作り、当町の理念や取り組みに共感し、積極的に支援。当市、参加してくれる町外在住者や町出身を増やします。
- ◇ふるさと納税及びイベントやプロモーション活動等絵雄連動させ、当町の未来づくりに共感し、積極的に支援。当市、参加してくれる町外在住者や町出身を増やします。
- ◇町議会議員による「**あなたの移住応援します隊**」や町外の学術機関、役場、町民と連携し、**休眠資産化している「空き家」**を町の力に変える思い切ったプロジェクトに挑戦します。

③ **ひとづくり**：老若男女を問わず、熱い思いを待つ未来づくりの担い手が、町内各地で活躍できる啓発研修活動を行います。

町民向け	児童生徒向け
まちづくりリテラシー 農魚経営リテラシー	IOT・AIリテラシー 国際ビジネスリテラシー

実践している取り組み

- ◇町外の優秀人材や先端的組織と連携することで、子供達に対する国際感覚・最先端科学・ビジネスマネジメント等の学びの場を設置します。
- ◇地域や集落の困りごとを逆転の発想で価値化し、ビジネスや外部の学びの場に変えます。
- ◇高齢者を主体としたソーシャルビジネス（社会貢献型ビジネス）やスモールビジネスによる「心の活性化」を促進します。
- ◇若手町民や役場職員を対象とした「課題解決スキル」習得プログラムを運営します。
- ◇徹底した当会活動理念の説明による「三方良し運動」の理解促進に取り組みます。

④ **新しい絆づくり**：町外の人と積極的に繋がり、仲間（参加者・支援者・投資者・移住者）になってもらい一緒に町や集落の未来づくりを行える様な仕組みを作り、広げます。

ア	各世代が役割を担い、元気に活躍できる「 地域 」づくり
イ	ゆるやかに柔らかく繋がり、支えられる「 互助関係 」づくり
ウ	新住民と在来町民をゆるやかに繋げ、相乗効果を町の力に変える「 場 」づくり

実践している取り組み

- ◇「あなたの移住応援します隊」との共同活動による移住者支援を介した絆づくりに取り組みます。
- ◇自助・共助・公助を強く意識した地域活動の表彰制度を作り、その活動を中心として積極的に支援します。
- ◇全国的に過疎地の主流になりつつある「**小規模多機能集落**」を集中的に研究します。

◇志の高い町民による自由な話し合いの場として、未来づくり委員会を設置し、「みんなで町の課題を考え、知恵を出し合い、実践する」未来づくりサイクルを積極的に展開します。

以上が事業の内容です。そこからは実践を通して多くに事業が生まれています。

- ・ A I と有名塾による I O T 授業：2 週間の遠隔授業等
 - ・ A I と農業プロジェクト：ミニトマト生産者と(株)ボッシュとの共同研究
 - ・ フランス有数の農業大学院との連携
 - ・ 国立台湾大学院との連携
 - ・ ニセコ町長の「秘書役派遣」
 - ・ 老若男女によつ未来づくり提言：ふるさと納税の使い方提言等
 - ・ 提言による小児科遠隔相談の導入
- などです。

考 察

10月4日、地域活性化センター神川内にある「錦江町まち・ひと・「MIRAI」創成協議会事務局」に出向き、未来づくり課長の池之上和隆さんからお話を聞くことができました。錦江町は6つの小学校、2つの中学校を持つ農林水産業が中心のまちであり、農業生産高は90.8億円、畜産が約7割という話から入られました。そして今まで感じてきたもやもやの数々という話をされました。

・今まで行政が行ってきた施策は間違いだったのか ➡ 住民が幸せになっていない施策って？
・若い移住者を連れてこい？ ➡ 価値観の全く違う若者を温かく迎える覚悟
・労働者がいない ➡ 自分の子どもにさせたくない仕事を
・昔はよかった ➡ 本当に？

これは、人口減少化社会の到来で厳しい現実を突きつけられている地方自治体が感じている、矛盾そのものと言えます。そうした中で錦江町は平成28年度にまちの総合戦略を抜本的に大改訂。そこには「いったい総合戦略策定は（地方創生）は誰のため？、何のため？」という懊悩が次の大きな変化を生み出したと言えます。「厳しい現実を逆手にとって、子や、孫のために希望あふれる「未来」を創り、つなごう」という理念を生み出すに至っています。

・今まで行政が行ってきた施策は間違いだったのか ➡ 人口ボーナス社会から人口オーナス社会への変化を直視
・若い移住者を連れてこい？ ➡ 若者を本気で応援できる町へ
・労働者がいない ➡ 従来の労働者になる手立てを
・昔はよかった ➡ 誰もが創造できない将来
フォアキャストでなくバックキャストで考えよう

今日を原点に明日を考えるという「フォアキャスト思考」、未来のある時点で目標を設定しておき、そこから振り返って現在すべきことを考える方法がバックキャスト。現状の継続では破局的な将来が予測されるときに用いられると解説されますが、的確に今の地方自治体それも地方の人口減少が進む自治体の求められる姿を表しておけると言えます。

当初、地方創生担当統括官の吉田秀正氏(元広島県安芸太田町観光協会専務理事)の、全国公募での選定とその後の活動にばかり注目していたたのですが、池之上和隆課長の解説を受ける中にあ

って、その根底にある今直面している人口減少化に伴う危機感の共有と、バックキャストの思考で捉えたその解決への道筋を総合的に組み立てることがあってこそ、全国的にその活動が認められ注目されているのだと改めて認識してきました。

プロジェクトの一つの柱である「仕事づくり」に盛り込まれた施策の数々、中でも「農林水産・商工業者への積極的な投資」への組み立てや、「農林水産業」への積極的な支援、**価値低迷中の特産品に特化した所得向上を応援**等は、現実の町の姿を足で稼いで、見て、話を聞いた結果ではないかと思えます。そうした施策の充実の上でそれらの解決法を示しているところは、他に類を見ない組み立てであり、まさにエビデンスに基づく政策の展開、又セグメント分析に基づく施策の充実と言えます。

視察の目的の中で述べましたが、議会は市内支所地域の地域振興について、都市計画の手法も駆使して地区調査を徹底し、高山市第八次総合計画の後期計画への見直しを契機に、その振興計画を策定して地域の未来像をしっかりと示すべきだと主張していますが、そうした点では錦江町のMIRAIづくりプロジェクトは大いに見本となる施策の展開です。プロジェクトの柱となる4つの政策群はどれをとっても痒い所に手が届くように手当てしています。

当町の強みを最大活用する視点と、弱みを逆転の発想で強みに変える2つの視点で、「三方良し」の思想で未来づくりにチャレンジしている姿が見て取れます。

高山市の現状を考える時

地域を公平な視点で捉え、偏った地域にのみ肩入れしていないか。

地域振興に必要な産業への支援は補助金だけに偏っていないか。

地域住民の方々の現実の姿を把握するために、役所は足で稼いでその現実を分析し、合わせてその要望をくみ取っているのか。

人口減少に対するバックキャストによる施策の充実に、行政は本気で取り組んでいるか・・・。

議会が要求している地区政策の充実には、

行政の本気度が試されています。